

地区名： 下庄地区

実施主体： 下庄をよくする会

1 基本データ

○地区人口 8,508人（H31.4.1現在）

○世帯数 2,890世帯

○行政区数 32行政区

○面積 約19.1平方キロメートル

○地区の沿革

下庄地区は大野市の北西部に位置し、勝山市に隣接している。昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入された。

地区内には、国の九頭竜川ダム総合管理事務所や県の奥越土木事務所、奥越合同庁舎のほか、ビュークリーンおくえつ、奥越明成高等学校、大野警察署、大野郵便局等の官公庁等が集中しており、国道沿いには複数の郊外商業施設も進出している。また、中部縦貫自動車道の大野ICも当地区に設置され、平成29年7月永平寺大野間が供用開始されており、北陸自動車道路と直結し、市民の利用が増加している。

○実施主体 下庄をよくする会



下庄地区の航空写真：農村地域と市街地が混在している

2 現状と課題

下庄をよくする会では、昭和54年の発足以来住民主体のまちづくり運動の推進に努めてきた。本年度で32回を数える下庄まつりは地区内の各種団体が参加し、地区を挙げての行事となっている。毎年多くの来場者でにぎわい、地区民の交流促進、団結力の強化、地区の活性化に大きな成果を上げている。

また、地区内の一人暮らし、二人暮らしの高齢者宅に手打ちそばを届ける「まごころそばサービス」や河川や山際の環境パトロールなどの環境美化啓発運動など、その活動は多方面にわたり、その活動に対し数々の表彰を受けている。

平成27年3月に
下庄地区内の名所・
史跡を紹介する

「下庄の名所・史跡」を、翌年の3月に地域に伝わる昔ばなしをまとめた「下庄の昔ばなし」を作るなど地域の資源発掘にも力を入れている。平成29年には名所・史跡を盛り込

んだ地域の唄『ふるさと「下庄」巡り旅』、平成30年には唄に踊りを振り付け、「下庄ふるさとかるた」を作成した。





これらの活動を支えるのは、地区内の区長会・ふわわ女性の会・体協・長寿会・下庄倶楽部ほか各種団体から選出される委員と32地区から推薦される地区推進委員、そして会の趣旨に賛同するまちづくり運動協力者からなる約90名の委員である。しかし、まちづくり活動への意識には差があり、一部の委員に活動が偏りがちとなっている。

また、長く活動をけん引してきた役員も年齢を重ね、より若い年齢層への世代交代が思うように進んでいない現状がある。

こうした中、平成25年に結成された若者グループ「しもプロ」は、継続的に事業を行い、結成時よりも会員は増えている。しかしながら結成時の会員が結婚して子どもが生まれたり、市外へ転勤したりするなど、活動できる会員が減ってきている。今後も活動を続けるため、会員数の増加と活動支援が必要となっている。

平成31年1月に「しもプロ」の河川での活動が評価され、九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会から河川愛護功労者表彰を受けた。



地区民誰でも参加でき地場産野菜の直売所として平成23年6月にオープンした「下庄青空市」は出品者減少により平成31年度に休会を決定した。

3 事業の内容

【名所・史跡活用ふるさと教育事業】

①下庄の唄と踊り

下庄地区の唄「ふるさと「下庄」巡り旅」と共に名所・史跡のマップを用いて各サロンに向いた。また、踊り会として、厚生年金のつどい、いきいき演芸会、JAテラル越前大野北支店プレオープン内覧会等に出演した。



J A北支店新店舗での披露

②名所・史跡を巡るスタンプラリー

夏休みに子どもを対象に区内を巡って名所や史跡に触れ、故郷への愛着と誇りを養うことを目的にスタンプラリーに加え各地点で問題を出した。



③ふるさとの行事の編集（「年中行事」集作成）

平成から令和に代わるこの時期に各区で行われている民俗行事等を区長、育成会長、婦人会長にアンケート形式で聞き、冊子にまとめ各区に配付した。

（120冊作成）



市内ブルーベリー農園の見学



あわら市福嶋農園の視察

【下庄青空市事業】

①園芸教室の開催（6月～12月：7回開催）

直売所「下庄青空市」の出品者を育成しようと園芸教室を行った。まず春野菜の作り方の講義を聞き、参加者の菜園に出かけ実地講習を受けた。

また、大規模農家に出向き、商品作物の栽培方法などを学習した。最後は果樹の剪定や土づくりを実習した。3月に予定していた「春野菜を使った料理教室」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止になった。

6月19日 夏野菜の栽培管理について

7月17日 ナス、キュウリの整枝
菜園巡回指導（参加者菜園）

8月21日 秋野菜の栽培管理
菜園巡回指導（ブルーベリー農家）

9月18日 菜園巡回指導（メロン、ネギ）

10月9日 あわら市視察

（園芸カレッジ・サツマイモ農家ほか）

11月13日 土づくりについて
菜園巡回指導（サトイモ農家）

12月4日 果樹の剪定指導（参加者宅）

【人づくり事業：「しもプロ」の取り組み】

①木瓜川クリーン作戦

7月20日（土）・21日（日）

ダックレース会場（出発点となる三角公園（月美町）からフォレストタウン（東中野）までの木瓜川流域で、ゴミ拾いや前日刈った草の始末を行った。陽明中学校生徒にも声をかけ7名の中学生が参加した。小学生の親子を対象に生き物観察会を行った。地域おこし協力隊として大野に住んでいる宍戸さんが講師となり、木瓜川に棲む昆虫や魚の種類で、川のきれいさがわかることを教えてくれた。



②木瓜川ダックレース 7月28日(日)

台風の影響で川の水量が多く中止となった。
公民館で公開抽選会を実施した。



③ジビエ料理教室「中野なすと下庄トマトと鹿肉を使ったストロガノフ カレー風味のピラフを添えて」 8月3日(土)

下庄公民館調理室で実施。講師にビストロシヤルムの村田勝俊氏を招き、鹿肉と地元の野菜を使った料理を習った。17名が参加した。



⑤ロケットストーブを作ろう

12月21日(土) 下庄公民館ロビーと青空市の車庫で親子を対象に実施した。しもプロの会員が講師となり、アウトドアや災害時に使えるロケットストーブを作った。24名が参加した。



【まちづくり活動に対する意識啓発】

①まちづくりシンポジウム「若い人が地域活動に入ってくるためには」 1月22日(水)

講師 人と組織と地球のための国際研究所

代表 川北秀人氏

31名が参加した。

④行人岩登山 11月10日(日)

下庄をよくする会の厚生部と共催して行人岩登山を企画運営した。大矢戸区の方を講師に実施した。下山後は下庄公民館でバーベキューを行い、参加者と親睦を図った。25名が参加した。



②まちづくり先進地視察研修

3月7日(土)、8日(日)に、岐阜県美濃市の「道の駅 美濃にわか茶屋」を訪問し農産物の出荷の際の注意点などを学習する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止となった。

③よくする会のまちづくり活動

下庄まつりの新企画として、eスポーツ体験を行った。その他、厚生部ではストレッチ教室、文化部ではフラワーアレンジや木工教室の体験事業、環境部では花壇コンクールの表彰等を行った。



下庄まつり eスポーツ決戦表彰



2月12日 みんなでストレッチ教室
参加者 28名



下庄まつりでの木工教室



環境部の花壇コンクール
参加団体 16団体

④自治会活性化事業

今年度から自治会の活動に交付金を活用し、9つの区において、各行事の拡充や備品の整備を行い、住民のコミュニティの強化につなげた。事業の目的別に、次のア～エまでの大きく4つに分けられる。

ア 維持・管理の負担軽減(その1)

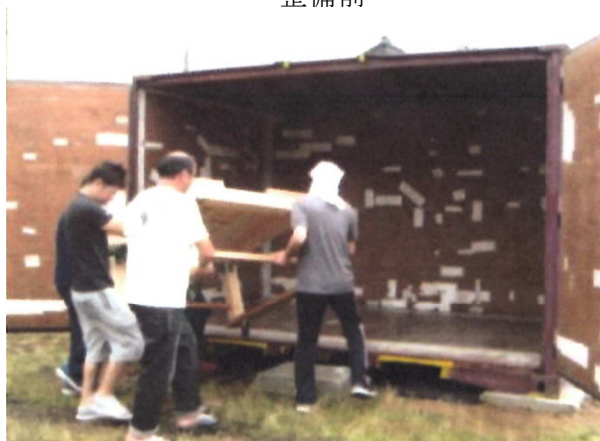
(実施行政区) 上中野区

(実施内容) 中野白山神社春季祭礼の催しとして、子ども神輿を2体運行しているが、子どもの人数が少ないため、台車に載せ引き神輿としている。台車2台の保管場所がないため、区民のご厚意により個人の倉庫に保管していた。この交付金を活用し、区の保管場所として中古コンテナを購入し、集会場敷地

内に設置した。台車を収納してもスペースがあるため、子ども神輿も収納し一元管理を図りたい。



整備前



整備後（台車の搬入）

ア 維持・管理の負担軽減（その2）

（実施行政区）菖蒲池区

（実施内容）8月18日菖蒲池区体育大会で約40年間使用してきた紅白玉入れとライン引きを更新した。前日準備に役員・班長20名が集まった。

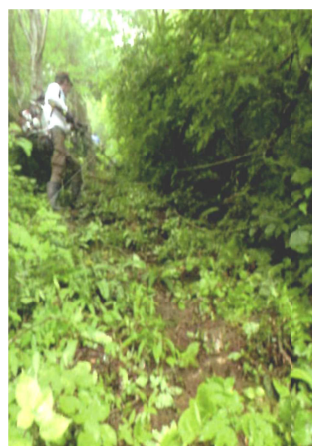


当日は区民約200名（内子ども約30名）の参加があった。

イ 地域住民の協働による地域づくり

（実施行政区）大矢戸区

（実施内容）区内には下庄の名所史跡の一つ行人岩があり、その登山道がイノシシなどにより荒らされている。多くの方に安全に登ることができるよう7月7日に参道の草刈り、休憩小屋の整理を行った。参道が全面草で覆われており参道かわからない状態であったが、作業により見通せるようになった。12月1日に行人岩登山口の小屋とその前の桜並木の雪囲いを行った。今年できなかった参道の急斜面の杭打ちとロープ張りを来年以降取り組みたい。



参道草刈り



登山口の雪囲い

ウ 年中行事のグレードアップ（その1）

（実施行政区）中保区

（実施内容）6月9日の中保地区体育大会において、防災に関連した新しい種目（担架リレーと消火器リレー）を企画し実施した。競技前に消防署に勤めている人から取り扱いの説明と注意点について指導を受けた。会場の体育館は地区の避難所でもあり、地区の集落センターでは愛保会（青年団）と婦人会が焼きそばやおにぎりの炊き出しを行った。競技を楽しみながら、避難時をイメージすることができた。約200人の参加があった。



担架リレー



亀山周辺のゴミ拾い



消火器リレー



左義長後のなおらい

ウ 年中行事のグレードアップ（その2）

（実施行政区）城北町区

（実施内容）区の行事はこれまで世帯で誰か一人出るのが普通であったが、行事を継続していくために、家族皆で参加して楽しめるよう、行事の内容を見直し企画した。7月7日に区の社会奉仕の後、子ども育成会と一緒に亀山周辺の清掃を行った。大人約20名、子ども約10名の参加があった。2月23日にどんど焼きを行い子どもたちが餅を焼き、振舞った。約60名の参加があった。その後集会場でなおらいを実施し、子ども対象のビンゴゲームを行った。なおらいには大人15名子ども11名の参加があった。

ウ 年中行事のグレードアップ（その3）

（実施行政区）陽明町3丁目区

（実施内容）7月27日納涼大会において子どもたちが楽しめる企画（三世代交流遊び「けん玉・コマ回し・スイカ割」パントマイムのショーと体験）を行った。



コマ回し

ウ 年中行事のグレードアップ（その4）

（実施行政区）中挾3区合同

（実施内容）中挾区では用水清掃や公園草刈りへの協力に応じ「地域通貨券」を発行している。この券は納涼大会の飲食模擬店やガラガラ抽選で使えるようになっている。今年8月24日の納涼大会では721枚回収できた。当日200人以上の方が来場したと考えられる。



屋外の模擬店

12月31日に年越しイベントとして清瀧神社でぜんざいを振る舞い、年男年女による福を招くもちまきを実施した。100人以上が来場した。振舞った餅（1,200個程）は前日に区の役員や婦人会の方が餅をついて、丸めたもので、汚れないよう袋詰めやリボン掛けを行った。



前日の餅つきと袋詰め

ウ 年中行事のグレードアップ（その5）

（実施行政区）友江区

（実施内容）2月9日左義長の後、十数年ぶりにぜんざい会を開催したところ、参加者が例年の約2倍の70数名が集まった。



エ 交通安全の啓発

（実施行政区）堂本区

（実施内容）児童の登下校の安全を守るため、ドライバーにスピードを落とすよう啓発する看板等を国道157号線沿いに設置した。横断時に使用できる旗も横断歩道の両側に設置し、児童や区民が使用している。



4 事業の成果

【名所・史跡活用ふるさと教育事業】

名所史跡をめぐるスタンプラリーでは、これまでの10カ所から9カ所に変更（2カ所を削り、1カ所を追加）した。削った場所の区の方から子どもが来なくなるので寂しいと言われた。それだけ挑戦している子どもが多く、受け入れる区の方も楽しみにしているようだ。今年はクイズを実施し参加者にスタンプを押すだけでなく名所・史跡への理解を深めることができた。

【下庄青空市事業】

野菜作りに興味を持つ人を発掘できた。このような方たちへの支援により、彼らが力をつけ、下庄青空市を臨時的にでも開催できるようにしたい。

【人づくり事業】

しもプロの主要事業「木瓜川クリーンアップ作戦とダックレース」を継続して実施することができた。「行人岩登山」と「ロケットストーブ作り」の参加者に福井県キャンプ協会の方がおり、一緒に行事を実施することになった。

【まちづくり事業】

○まちづくりシンポジウムの開催

シンポジウムには下庄をよくする会の会員のほか、しもプロの会長、区長の参加があった。昭和から平成、令和と時代が変わっていく中で世帯構成人数や年齢構成人数も大きく変わってきたこと、昭和と同じ地域活動では参加者も減り役員の方の負担が増えてしまう。住民の現状に合うよう行事のやり方を見直し、若者もただ楽しいだけでなく地域のためになる活動をすると思いきを得られること、前期高齢者が地域活動を担う大きな力であることなどを話された。参加者は今後の地域活動の取り組みの方向を見いだすことができた。

○自治会活性化事業

多くの住民の交流が図られ、コミュニティの強化につながった。

5 今後の展望

【地区内の名所・史跡の活用】

今後も積極的に地域に出て学びの場を提供し、小学生の史跡めぐりを継続して行い、さらなる学習を深めるため「下庄ふるさとかるた」や唄『ふるさと「下庄」巡り旅』を活用していきたい。

【直売所「下庄青空市」の再開】

来年度は実際畑を借りて野菜を栽培する園芸教室を開催し、出品者を育成したい。園芸教室の受講生については出来た作物を商品化できる人に限定し、再開につなげたい。

【「しもプロ」の事業支援】

「しもプロ」のこれまでの活動で地域に根付いてきた木瓜川での事業について引き続き支援していきたい。

また来年度は新たに休耕田を利用した農業体験と、今年度開催したロケットストーブ作りを発展させたもの（自然体験や防災キャンプ）を行うことを考えている。地域に役立ち、参加者が喜びを感じる事業にしていく必要がある。

【まちづくり事業】

下庄をよくする会は5部会（環境・文化・産業・厚生・広報）と地区推進員会があり、各部等で引き続き地域を明るくする事業を展開していく。

各区（自治会）において年中行事の企画、後継者の育成など地域コミュニティを強化する活動を支援していきたい。

どの事業も新型コロナウイルス感染症が終息しないとできない。現在は感染の防止が第一の課題である。